

★おすすめポイント

【アーモンド】 ソン・ウォンピョン (著) 矢島暁子 (訳)

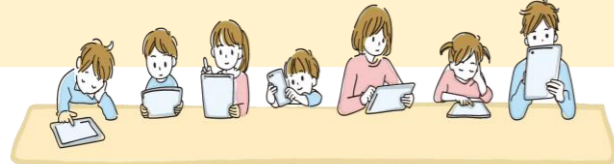


この本は韓国で出版されて話題にもなったのでご存じの方も多いかも... 感情のわからない「怪物」と呼ばれるユンジェが彼なりの方法や感じ方でもう一人の「怪物」と呼ばれているゴニと出会い、魂の深いところで共鳴しあう物語だと私は理解して読みました。

【「ふつうの子」なんて、どこにもいない】 木村 泰子 (著)



全ての子供を同じ教室で育てていく(発達障害、不登校、問題児)という事を実践されている、大阪市立大空小学校初代校長、木村泰子先生が書かれた本です。



★ステイホーム！みなさんの「よかったこと」「困ったこと」を聞いてみました

子育ての中いろんな困難を乗り越えてはきましたが、初めてのコロナ禍の中での「ステイホーム」みなさん、各家庭ではどんな過ごし方をされたのでしょうか。

困ったことは？

- ✓ ゲームの時間制限
✓ 主婦(母)の仕事が増えた(家族の食事準備)
✓ 子どもだけの留守番
✓ 生活リズム、昼夜逆転
✓ 6月から始まった学校になじめない
✓ 環境の変化のストレス、イライラ
✓ コロナのニュースに敏感になり不安を感じていたのでニュースは見せないようにした
✓ 部活動や塾
✓ 先の見えない状況で休む不安、一日一日をやりすごしてきた
✓ 4月から宿題がふえた
✓ こどもと母の関係の密度、ひとりになれない
✓ 学校から出される課題が予習で、教える事が大変だった
✓ 運動不足、毎日通学がはじまって疲れが出る

アイデア

- ✓ こどものやりたいことをいっしょにした
✓ 家族でゲーム
✓ 祖父母とはオンラインでつなぎっぱなし

よかったことは？

- ✓ 不登校の子は気が楽になった
✓ 子どもらとゆっくり話せた事
✓ みんな体を休める事が出来たこと
✓ 断捨離出来たこと
✓ 趣味に時間を費やせた
✓ ネットの新しい発見を家族で楽しめたこと
✓ 子供の学習に向き合い子供の得意不得意が理解できた
✓ オンライン学習で自己紹介など大学の面接準備ができた
✓ 嵐のコンサートがオンラインで見れた
✓ 親が仕事に行っているので家事をしてくれるようになった



入会のご案内

正会員

対象：発達障がいや困りを抱える子ども(未就学児〜小中高生)とその家族
入会金：2,000円
会費：5,000円/年(月の場合は500円/月)

賛助会員

対象：HAHATO.COの事業を応援していただける個人または団体
入会金：なし
会費：1,000円/年(一口)

①会員期間は11月1日〜翌10月31日までの1年間、退会の申し出がない限り、自動的に1年更新するものとします。

②年度途中入会の方も10月31日までを会員期間とします。

③途中退会されても、会費の払い戻しはいたしません。

ご支援のお礼

助成金

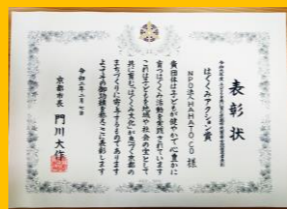
- 2019年 北区社会福祉協議会 共同募金分配事業
2019年 イオン幸せの黄色いシートキャンペーン
2019年 京遊連 社会福祉基金



いただいた助成金は子どもたちや保護者の支援に使わせていただきます。ありがとうございました。



★受賞しました！



子どもを共に育む京都市民憲章実践推進者 はぐくみアクション賞

HAHATO.COの活動の見学、体験や正会員、賛助会員の入会をご検討の方、またボランティアにご協力いただける方は下記までご連絡ください。

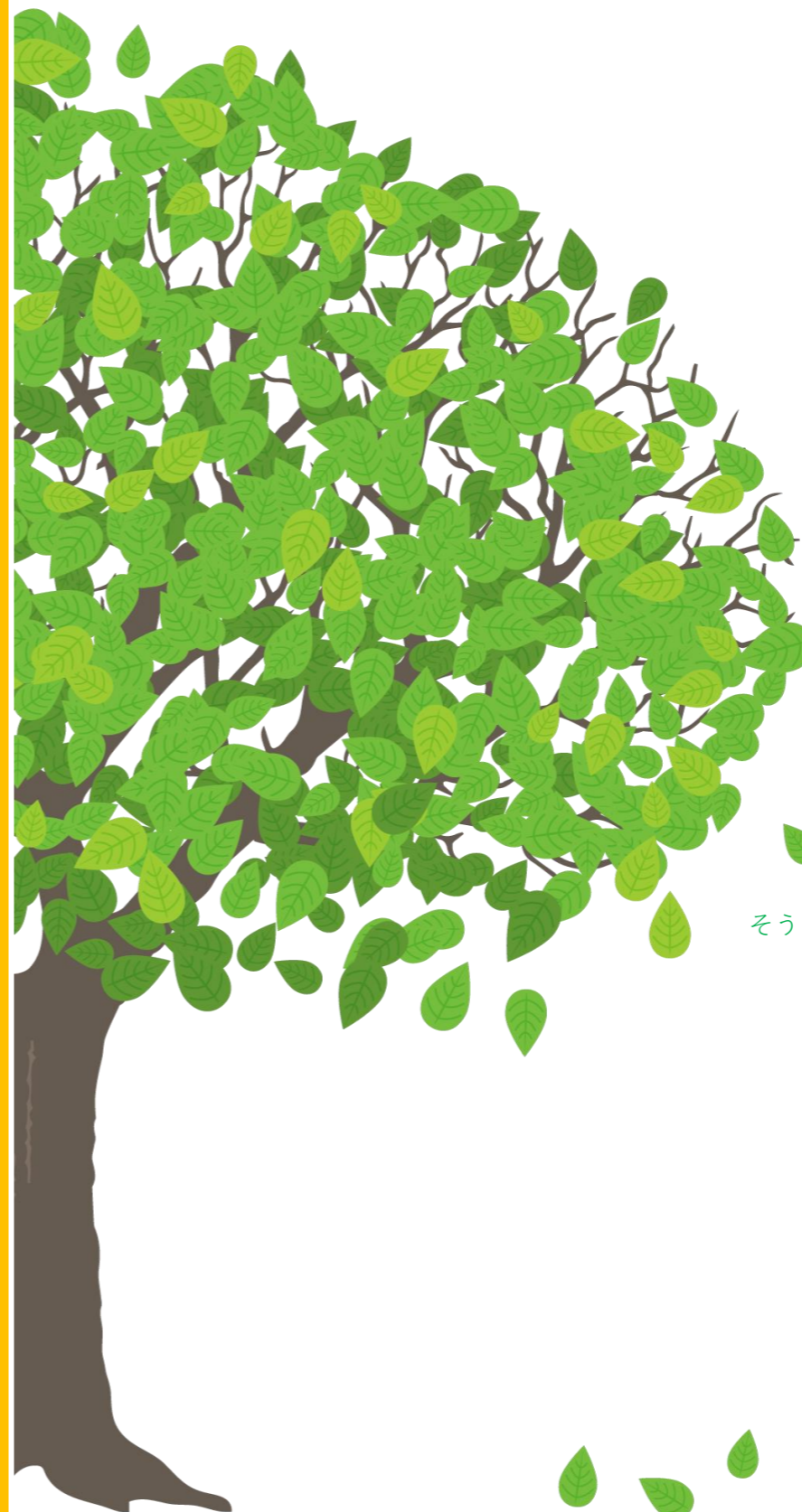
Mail hahato.co@gmail.com
HP https://www.hahatoco-npo.com/



ホームページ

NPO法人 HAHATO.CO News Letter

発達障害などの困りを抱えた子ども達の自己肯定感をはぐくむためのサポートをする会



「目に見えない障がいである発達障がい等の困りを抱えたこどもたち」みんなと違うから障がいと呼ばれてしまう

「困った子」ではありません。子どもたちが困っているのです。困っている子どもたちのサインを受け止め 家庭や学校、社会が 共有理解とサポートをつないでいけたら...

子どもも親も家族みんなが少しでも気持ちが楽になれる居場所。 HAHATO.COは そういった居場所を共に広げていきたいと願ってます。

そんな願いを抱いた母親たちが中心となって、 HAHATO.COはNPO法人として活動を始めました。



HAHATO.COの活動を紹介します

あそびのHIROBA



「グリーンパーク思い出の森」に宿泊しました。天気もよく、絶好のアウトドア日和でした。

専用パーベキュースペースとキッチンで、食事の支度からはじめます。黙々とパンを丸める子供たち、火を起こす子供たち、はしゃぐ子供、それぞれのペースで大人と準備をすすめます。ダッチオーブンで丸鶏が焼きあがると歓声があがりました。夜には、マシュマロを焼き、ペンライトアートを楽しみました。

子供たちを中心としたハハトコのキャンプはあたたかく、ほっこりした雰囲気です。我が子を、家族以外の大人に自然と委ねることができるのは、大切なひとときで有り難く思いました。

勉強会【学研教室】

2019年度 学研教室との勉強会・座談会を開催いたしました。

テーマ：「地域の子どもたちの学びの場「学研」の場での子どもたちへの対応を考える」

第1部：特性を持つ子どもの保護者の子育てを通して考える

第2部：元通級教室教諭からの支援者としてできることを考える

延40名近くの指導者の方々にご参加頂き、子どもたちへの対応について語り合いました。

感想としては「こんなに熱心で温かな指導者と出会えた子どもはきっと大丈夫！」の一言でした。いつも地域の学びの場で奔走頂きありがとうございます。

まなびのHIROBA

まなび事業も7年が経ち、最初の生徒はもう大学生となりました。

集団で行う自習室では、生徒もスタッフもいろんなカラーの集まりで、英語の話から海外旅行の話になったり、理科の話から人生観の話になったり、学びというものの原点を感じるところもあります。生徒を独自の価値観をもったひとりの人間として向き合う事。それを通してスタッフが生徒から学ぶ事は多くあります。

学びというのは、大人から子どもへ一方的に与えるものではない事、子どもが大人を感心させる事も十分できるのだと、自信を持ってその先の道へ進んで行ってほしいと思います。

吉田友子氏講演会

iPEC（子どもとおとなの心理学的
医学教育研究所）所長



「自分のことの教え方」著者の吉田友子氏をお招きし、キャンパスプラザ京都にて勉強会を開催しました。当日は、ほぼ満席の230名の方にお越しいただきました。

支援者、保護者、当事者とそれぞれの立場で少しでも生きやすくなるヒントを求め、吉田先生の言葉に熱心に耳を傾けました。そんな吉田先生の言葉の中に「あの子」という相手を尊重し愛情も感じる言葉がとても印象的でした。

みなさんのアンケートから少し抜粋して感想をお届けします。

参加者の感想より

- 「欠けているところを補う」ような療育を行ってはいないか改めて先生のおっしゃったことをよく肝に銘じて行いたいと思います。
- 私たちが少数派意見にまず耳を傾けられるようになりたい。そして少数派の意見も多くの人に知ってもらえるようにすることでみんなが安心して生活できるようになればいいと思う。支援する、不安を取り除くことを甘やかして捉えられてしまう現実もあるけれど、安心してできたと言う成功体験を積むことの方が大切と言うことを伝えていきたい。
- 吉田先生の発達障害の捉え方が優しくポジティブで学びながら癒されました。ありがとうございます。「知らないことが差別である」とお聞きしました。深く感動しました。
- 今まで自閉スペクトラム（症）についての講演会には全て聴講してきましたが、「告知、自己理解」のテーマの内容は初めてだったのでとても参考になりました。告知についてとても慎重に行われること、説明の仕方、告知するメリット、またその支援の連携について…当事者の方が自己理解し楽しい人生、生活が送れることが大切です。そのための告知、周囲の支援のあり方、当事者のスキルどちらかに偏ることなくお互いに折り合いをつけお互い気持ちよく過ごせるようにしていきたいと思いました。
- 私も当事者として、医師と母から告知を受けた身です(今ではほぼ記憶にありませんが…)自身についての自己理解はしているつもりでしたが、本日の講演会でよりその理解が深まったような気がします。現在は発達障害児支援と、周囲への発達障害児の理解促進に携わるべく心理援助職を志す身ですが、その上でも実になるお話が多く、非常に有意義でした。

Specialthanks

当日は話の見える化「ファシリテーショングラフィック」にて講演内容を共有させて頂きました。

凸凹フューチャーセンター
奥野美里さま、ありがとうございました。

日々の生活の中で、嬉しいことや悲しいこと、いろんなエピソードが生まれます。会員やスタッフのそんなエピソードを少しだけご紹介します。



卒業にあたって

中学校卒業 Aくん

この文章を書いている今は、中学卒業を目前にしている息子の母です。

息子は幼い頃から、同年代の集団で過ごすのが苦手で、よく癇癪を起こしていました。色々な支援のおかげもあり成長してきましたが、集団での問題が無くなるわけではなく、中学校では普通級で過ごすことが難しくなり支援級に在籍することになりました。

親としては進路が気になり、早めに本人も連れて高校の見学や説明会等に行きました。学習面でも偏りがあるため、私は「受験への危機感を持って勉強してくれれば追いつけるかもしれない」という期待が心の奥にあり、「少しずつでも勉強しないと行ける高校の選択肢がなくなっちゃうよ」といった内容の声かけをしてしまったのだと思います。それが息子にとっては逆効果で、「僕には行ける高校なんてない」と考えるようになってしまいました。

そこで改めて気づいたのは、息子は色々な問題を起こしながらも毎日学校に通っており、私の自分勝手な思いでは、いっそ学校に行ってほしくない気持ち半分、学校には毎日行っていることを振り所にしている気持ち半分でした。

本人に合えば全日制の高校に通ってほしいという無意識の思いがあったのかなと思い、本人の気持ちを考えて視野を広げ、通信制高校の情報も集め始めました。

通信制高校にはカリキュラムや通学タイプなど様々な選択肢があり、本人の興味のある分野を学べたり、通学回数が本人のペースと合っているところを探し、本人の納得できる高校に進学できることになりました。進路が決定してからは安心した様子な反面、残りの中学校生活に通い続けるモチベーションが無くなったのか、遅れて登校したり欠席したりといった生活を送っています。けれども、保育園時代を含めると約14年間、ほぼ毎日苦手な場へ通い続けた頑張りには相当なものだっただろうと思い、先生方も見守ってくださっています。

高校ではもちろん新たな課題は出てくると思います。でも、本人が「通わなければならない」学校ではなく、自分が選んで自分のペースで学んでいける学校があると気づき安心できた今の気持ちを胸に、高校生活を送って行ってあげればと願っています。

高校卒業 Bくん

今春、息子は高校を卒業する。

欠席、遅刻もほぼなく、元気に3年間登校できたことにほっとしている。

本人は、卒業後は進学を希望していたものの、当初は、不安があり自信なさげだった。それでも興味のある学校のオープンキャンパスに参加しているうちに、挑戦してみようという自覚を強くしていったようだ。面接対策に想定問答を作り、家でも繰り返し練習した。

練習を重ねているうちに、自分の言葉で、アドリブまで加えて話せるようになったときには驚いた。これはちょっと難しくてハードルが高いかぁなどと親が勝手に決めてしまっていた枠を、子供は超えていく力を持っていると実感した。なんとか合格することができ、また新たなステージが待っている。これからはいろんな壁や挑戦が待っていると思うが、背中を少しだけ押して見守っていきたいと思っている。

学校だけが居場所じゃない！～VOL.4

梟talkという親の居場所

ハハトコでは梟talkという、不登校や学校に行きづらい子を持つ親の座談会をしています。

参加者の1人として長年色々なお母さん達と話す機会があり、ここ最近感じるのは、我が子が不登校になった頃より明らかに子ども達の居場所が増えている事。

学校に行きづらい子ども達の中には、「学校には行かなければならない」「学校に行かないと将来どうなってしまうのだろう」という呪縛と漠然とした不安に悩んでいる子が多いのが現実。

親も同じです。「学校に行ってほしい」「進路はどうするの？」心配は尽きません。

そんな時に、例えばフリースクールや放課後デイやふれあいの杜（京都市の適応指導教室）などの選択肢があるとわかれば安心できます。

もちろん、まずは自宅で居心地よくリラックスして過ごすことがベストだと思いますが、その先に他者との関わりや外での活動を求める時、学校より小集団だったり、自分のペースで通えたり、似たような状況の仲間と過ごせたりすることは重要です。

保護者である私達も不安を吐き出し悩みに共感したり、勉強会に参加してみたりと、以前よりも情報に触れる機会が多くなりました。それに伴い私達の意識も変化し、学校に拘らず子どもの本質を捉え、賢く居場所を選んでくれる人が確実に増えています。

不登校＝孤立、ハハトコではそんな悲しい思いはさせません！

梟talkは私にとって大事な情報共有、エネルギーチャージの時間です。皆さんにとりましても梟talkが居心地の良い場になれば幸いです。

